

もしも、 認知症になったら 〜診断後に大切な5つのこと〜



産業医 田名 毅
(首里城下町クリニック)

産業医だよりでは、毎月当院で行われている地域むけ医療講演会の内容を抜粋してお伝えしています。今月の地域むけ医療講演会は、「もしも、認知症になったら〜診断後に大切な5つのこと〜」というタイトルで嬉野が丘サマリア人病院 認知症疾患医療センター 精神保健福祉士の山川ゆかり先生にご講演いただきました。病氣の話しというよりも、認知症と言われたらどのような社会資源があり、家族や周りの関わる人々がどのように対応すべきかなどに関して貴重な内容でした。以下の講演の要旨を紹介します。当日は130名余りの来場があり、認知症に対する関心の高さを感じました。

1、認知症とは

脳のはたらきに不都合が生じ6か月以上生活に支障が出ている状態を指します。次の4つが代表的な病気です。

- ①アルツハイマー型認知症 ②レビー小体型認知症 ③前頭側頭型認知症

※この3つは脳細胞が壊れることで起こるので根本的な治療は困難です。

- ④脳血管性認知症： 脳卒中や動脈硬化で起こるので予防が可能です。

2、加齢による“もの忘れ”と認知症による“もの忘れ”の違い

加齢によるもの忘れは体験の一部を忘れるので、ヒントで思い出すことが可能ですが、認知症のもの忘れはすっかり覚えていないのでヒントをあげても思い出せないということです。

認知症には中核症状と周辺症状があります。

周辺症状では、一番不安に思っている本人の気持ちに寄り添う余裕がないときに、悪循環に陥り悪化し、より介護が必要になることがあります。

3、認知症の治療

根本的な治療はありませんが

- ①進行を遅らせる治療（薬剤療法）と周辺症状を和らげる治療（薬を使わない方法と薬剤療法）
②デイサービスなどを利用して「何もしない状態を作らない」ことによる現状維持を目指す治療があります。

4、認知症の気づきのポイントの目安

- ①記憶の障害（最近の出来事を忘れる、約束や伝言ができない、同じものばかり買う、調理ができない）
②会話やテレビの内容が理解できなくなった
③仕事や家事、お金・薬の管理、役所の手続きなど日常生活上で来ていたことができない又は失敗が増えた



- ④気分の落ち込み(元気・意欲がない、不眠、外出が減った、人と合わなくなった)
- ⑤性格変化(怒りっぽい、人が変わったようになった)
- ⑥まぼろしが見えたり、聞こえたりする。
- ⑦行動の変化(我が道をいく行動)や特定の食べ物への固執



5、認知症の相談先

《医療機関》

- ・かかりつけ医
- ・認知症疾患医療センター
- ・認知症の診療を行っている医療機関
(内科、脳神経外科、心療内科、精神科、もの忘れ外来など)

沖縄県認知症疾患医療センター

認知症の医療相談・治療を行う専門機関として、
県の指定を受けた病院のこと。(電話相談のみでも可)

《支援機関》

- ・認知症の方と家族の会
- ・地域包括支援センター
- ・新オレンジサポート室(若年性認知症)
- ・認知症初期集中支援チーム など

- ◆北部圏域(宜野湾以北) 宮里病院
- ◆中部圏域(宜野湾以北) 北中城若松病院
- ◆南部圏域(西原・浦添以南) 嬉野が丘サマリヤ人病院
- 〃 オリブ山病院
- ◆宮古島地区 うむやすみやす・ん診療所
- ◆全 域 琉大病院...診断・治療が難しい方の対応

6、もしも、認知症と診断されたら



①認知症の方にとって

- ・「今できること」を続け役割や居場所の確保を。できなくなった部分はサポートしてもらう(メモの活用を)。
- ・運転免許の自主返納、利用できる制度の活用(通院医療費の助成、障害年金など)。

②ご家族にとって

- ・別居の親族には病状や生活上の障害が理解されにくいいため、受診時から、家族も一緒に付き添う。
- ・生活や介護に必要な情報を集める方法として、相談窓口や専門家を活用する。
家族にしかできない、分からないことがある。しかし、困りごとや介護の負担感は、人それぞれ。
- ・介護者自身の健康や、ストレス軽減も重要。

③支援者も孤立しないこと

担当している支援者からは、「家族の協力が得られない」「頼れる親族がいない」加えて認知症が進み、ご本人の意思確認が難しいとの声がよく聞かれる。他機関を交え一緒に協議する必要がある。

④適切な医療・介護サービスの利用と移行

- ・病気のステージごと、生活環境等により、必要とする医療・介護サービスは変化する。
- ・心身の状況に合わせて、医療・介護サービスのバトンタッチがスムーズにできると良い。
- ・医療と福祉の関係者間の連携も重要。



⑤地域住民の少しの目と手

- ・認知症は誰でもなる可能性のある身近な病気。1人ひとりの正しい理解と見守り、声かけ、手助けできる小さなことをつなげると大きな支援の輪になる
- ・発症予防、進行予防の視点から、地域の活性化、住民のつながり、居場所作りが大事。

7、もしも、認知症になったら、周囲に伝えますか？



認知症になり、人や地域の手を借りることは、恥ずかしいことではありません。必要な時に当たり前に助け合える、そんな社会であってほしい。まず「身近でできる小さなこと」から始めませんか…。と締めくくった。





173回 首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ 血圧と腎臓の大切な関係

～腎臓を悪くしないために～

医療法人 麻の会 首里城下町クリニック 第一院長
産業医 田名 毅 先生

その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

あなたの **相談窓口** です！



保健師・産業カウンセラー
認定産業看護師 田名彩子

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。
事前にお電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。
事前にお電話ください働く人健康支援室で“産業医との面談”とお声掛けください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。

12月から
復帰します！



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー
與儀雅代



看護師・衛生管理者
糖尿病療養指導士 新垣朋子



認定産業看護師
山城愛子



連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000
携帯 080-4312-9200 (田名彩子)
メール saiko@biscuit.ocn.ne.jp

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい！